

有年の空

文責 塩田 進 TEL49-2081

< 今月の俳句 >

「冬空を 突き抜けるごと 物見台」

お正月に、おもしろい落語を聞きました。

塾へ通い始めた、子どもが算数の宿題を持って帰って、父親にたずねます。

「月夜の晩。池に鶴と亀がいます。頭を数えると16匹。足は44本。

鶴と亀はそれぞれ何匹でしょう。」

鶴亀算といって、鶴の足は2本、亀の足は4本、

ということから、鶴と亀の数を考えます。

中学生になると、方程式で解きます。

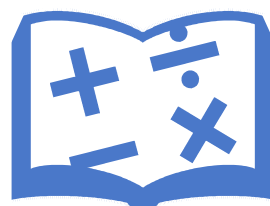
鶴 = X、亀 = Y とします。

$X + Y = 16$ 、 $2X + 4Y = 44$ 。

$X = 16 - Y$ だから $2(16 - Y) + 4Y = 44$ 、

$32 - 2Y + 4Y = 44$ 、 $32 + 2Y = 44$ 、 $2Y = 44 - 32$ 、 $2Y = 12$

だから $Y = 6$ 、 $X = 10$ 答えは < 鶴が10匹、亀が6匹 >



ところが、父親の答えは、「アホとちゃうか。頭を見たら鶴か亀か分かるやろ。なんで足を勘定せないかん」。と不機嫌。

運動場に物見台が

子どもたちが里山探検でお世話になっている西有年の森から、檜の間伐材をいただき、運動場に「物見台」を作ってもらっています。

材木を用意してくれた、赤穂森の倶楽部や自治会の方々、基礎をしてくれた栄華商会さん。組み立ててくれている寺内さんには特にお世話になっています。

子どもたちは出来上がって、休み時間に登って遊ぶのを楽しみにしています。



< 先生のコーナー >

今回は6年生担任の 穴戸 知子 先生です

第7回目となる有年物語が、1月27日(金)に行われます。今年のテーマは「今、自分にできること」です。

3月の大震災の影響もあるのでしょうか。生きるということは何か、つながり合うことの大切さ、それを有年の民話をもとに子どもたちなりに考え、劇に表現しようと練習に励んできました。

今年も、たくさんの方々のご協力のもと、上演できることに感謝の気持ちでいっぱいです。ぜひ、「有年物語」を観に学校へお越しください。一緒に昔話の旅に出かけ、有年のすばらしさを発見してみませんか。

- ★ 12/30、皆忙しいので、3歳半と1歳半の孫の子守を命じられました。ほんの少し目を離してトイレから戻ると、きゃきゃと騒ぎながらうれしそうに障子を破っていました。31日、監督不行届という理由で、私は朝から一人で障子張りをしました。